



テーマ
Theme

My Dream ～生き方を学ぼう～
「鍛冶屋体験教室」

学校・園名
School name

甲賀市立大原小学校（6年生）

講師等
Lecturer etc.

鍛冶屋研究会

実施日
Date

2017年10月19日

教科等
Subject etc.

総合

授業 Class



甲賀市立大原小学校における鍛冶屋研究会との連携授業が、6年生34人の児童を対象に実施されました。

最初に、講師の鍛冶屋研究会の方から、鉄の性質、鉄加工の歴史についての話をお聞きました。児童は、初めて知る鍛冶屋の世界に興味津々でした。続けて、鍛冶屋として、40年以上農具を中心に作り続けている職人の方に「嬉しかったことは何ですか？」「一日中作業をしているのですか？」「一つの道具を作るのにどれくらいの時間がかかりますか？」と次々に手を挙げて質問をしました。鍛冶屋職人の方は、「鍬（くわ）なら2日くらいで出来上がる。」「注文してくれた人が満足してくれる物が作れたときが嬉しい。」「火を使う作業で暑くて夏場の作業時間は半日になることや裸になりたいほど暑いけれど火傷をするのでシャツ1枚は必ず着る。」と答えられました。そして、「この道に入る前は、簡単にできると思っていたけれども、実際にやってみるとできなかつた。どうしたらいいか考え、失敗もして梯子（はしご）を一段一段登っていくようにやってきた。皆さんもこの授業で体験してみてください。」と子どもたちに投げかけられました。

次に、児童は、棒状の鉄から思い思いの形を作っていくことに挑戦しました。細い棒ですが、曲げようとしてもびくともしないほどの硬さです。その棒を、約1000度の炉で熱して柔らかくして、金槌で打っていきます。「炉に入れる」、「打つ」という工程を何度も繰り返しました。

児童は、楽しさを感じるなか、鉄がすぐ冷めること、思うような形にならないこと、腰が痛くなることなどいろんなことを体感しました。また、授業が終わる頃には、何十年もこの仕事を続け、大きな鍬などを作り上げる、職人の方の偉大さを感じ、一つの「生き方」を学ぶことができました。

感想 Impression

児童より Impression from Children

- 思っていた以上に鉄を曲げるのは難しかったです。
- 職人の方の「失敗しても何度も何度もやり直す。梯子を1段1段登るように」という言葉が心に残りました。
- 自分が苦手なことでも、職人の方のようにチャレンジしていくことが大切だと思いました。

学校より Impression from school

事前に、どのような内容で実施して下さるかの打ち合わせもあり、丁寧に説明していただきました。当日も、実際に鉄を熱して打つ体験をさせていただいたことで、子どもたちは伝統の技の難しさや、魅力を体感することができました。

講師より Impression from lecturer

最近の子どもたちは、できあがった物をお店で見ます。物づくりの工程を知らないのでも、見て知って欲しいという思いもあって活動しています。今回の授業では、静かに話を聞き、質問もあり、熱心に作業をしてくれました。この経験が何かの役に立つのではと期待しています。